

~いつも通りに新しい発見を~

座ることのできる場所が設置してあり、絵を描いたりなどの文化活動に利用することもできれば、歩行者の休憩場所としての役割もある。
学生らの作品を展示する場所もいくつかあるため、作品を見ることで起こる新たな発見と留まりを狙った提案。

個室が複数あり、吹奏楽や軽音、合唱などの音を出す部活をしたい学生向けのエリアになっている。
歩いていると学生の練習している音が聞こえてくることで歩行者が立ち止まり、新たな発見と留まりを作ること狙った提案。

歩行者だけの空間で文化活動する学生、文化活動を体験する市民、芝やコートで体を動かす人々、さまざまな要素が混じり合う空間で神戸の学生と地域住民、外部から遊びに来た人々との新しいコミュニティの繋がりが生まれることを狙った提案。

コンセプト

普段使っている道をただの通り道としてではなく、多くの寄り道をしてもらう。それによって街の価値を周辺地域を利用する人々に気づかせ、留まらせる。そしてまた**街の新たな良さを発見**してもらう。

現状のミュージアムロードの問題点

- ①ミュージアムロードという名前の割には全体を通してあまり**ミュージアム感を感じられない**。
- ②社会人や学生らの通勤や通学としての利用が多く、**ただの通り道になってしまっている**。そのため、留まりがあまり見られず、灘という街の価値が大衆に伝わりきっていない。

人通りの多さの違い

ミュージアムロードをJR灘駅、BBプラザ美術館で3カ所に分けた時、調査の結果、JR灘駅~BBプラザ美術館が最も人通りが多く、王子公園~JR灘駅とBBプラザ美術館~兵庫県立美術館とではさほど人通りの多さは変わらなかった。
時間帯によっては人々の帰る時間になり、人が増えたりするが、3カ所で比較したときにはやはり、JR灘駅~BBプラザ美術館の人口が多かった。

問題点に対しての提案内容

道を迷路状にする。

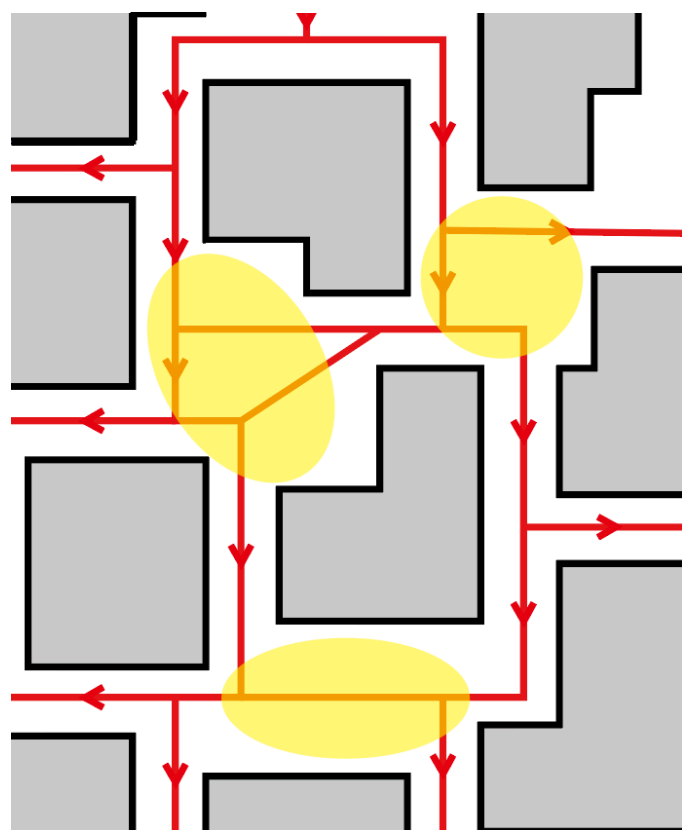


- ・目的地までの道で必ず複数回角を曲がることになる。
- ・普段と違う道を通っても目的地到着までの時間は大差ないため様々な道を通る。



新しい道を通るたび
角を曲がるたびに
新しい発見が得られる。

建物同士の中にミュージアム
ロード全体で複数のスペース
を設け、パブリックア
ートなどを展示できる場所を
作る。



小中学校の部活が廃止されつ
つある。



ミュージアムロードなのでアート
分野である文化部の受け皿
を作る。



KOBEKATSU※との協力も
兼ね、地域の子どもたちの活
動の場を用意する。

※KOBEKATSUとは
学内でのクラブ活動を廃止し、地域
での活動に移行する仕組み(神戸の地域
クラブ活動)

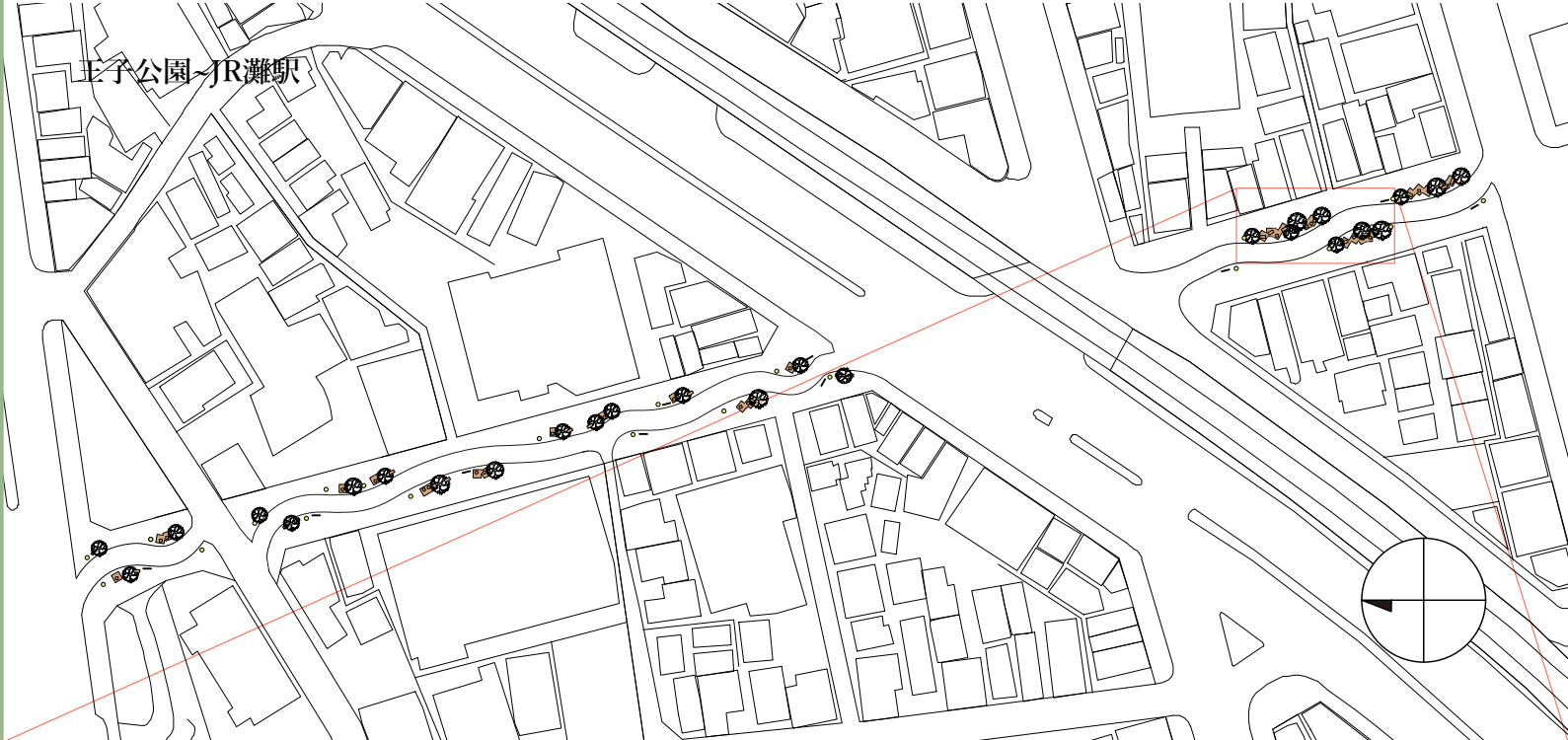
車が通れない特別区にする。



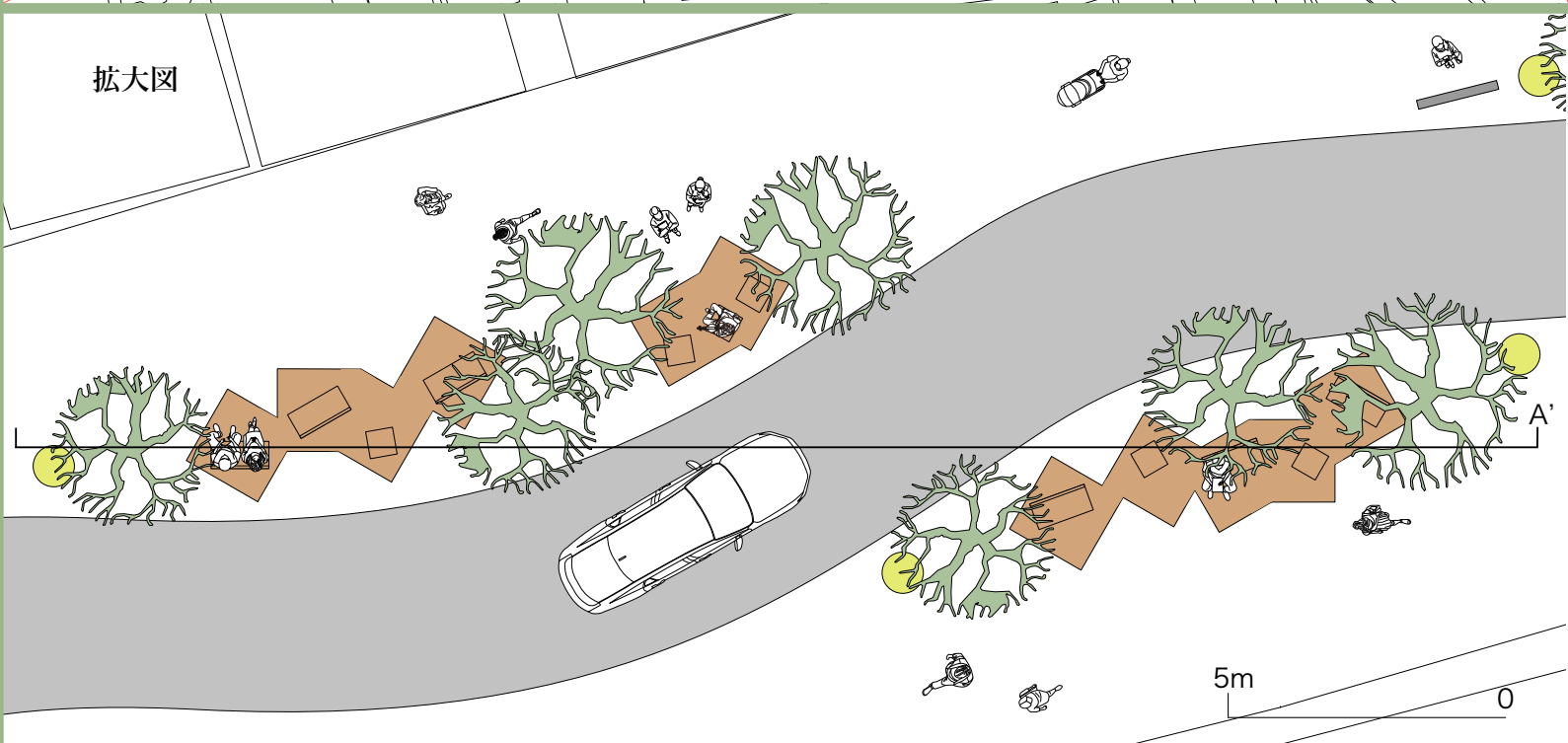
歩きやすくなる。



訪れた人が長く滞在し、
様々な消費を行う。



拡大図



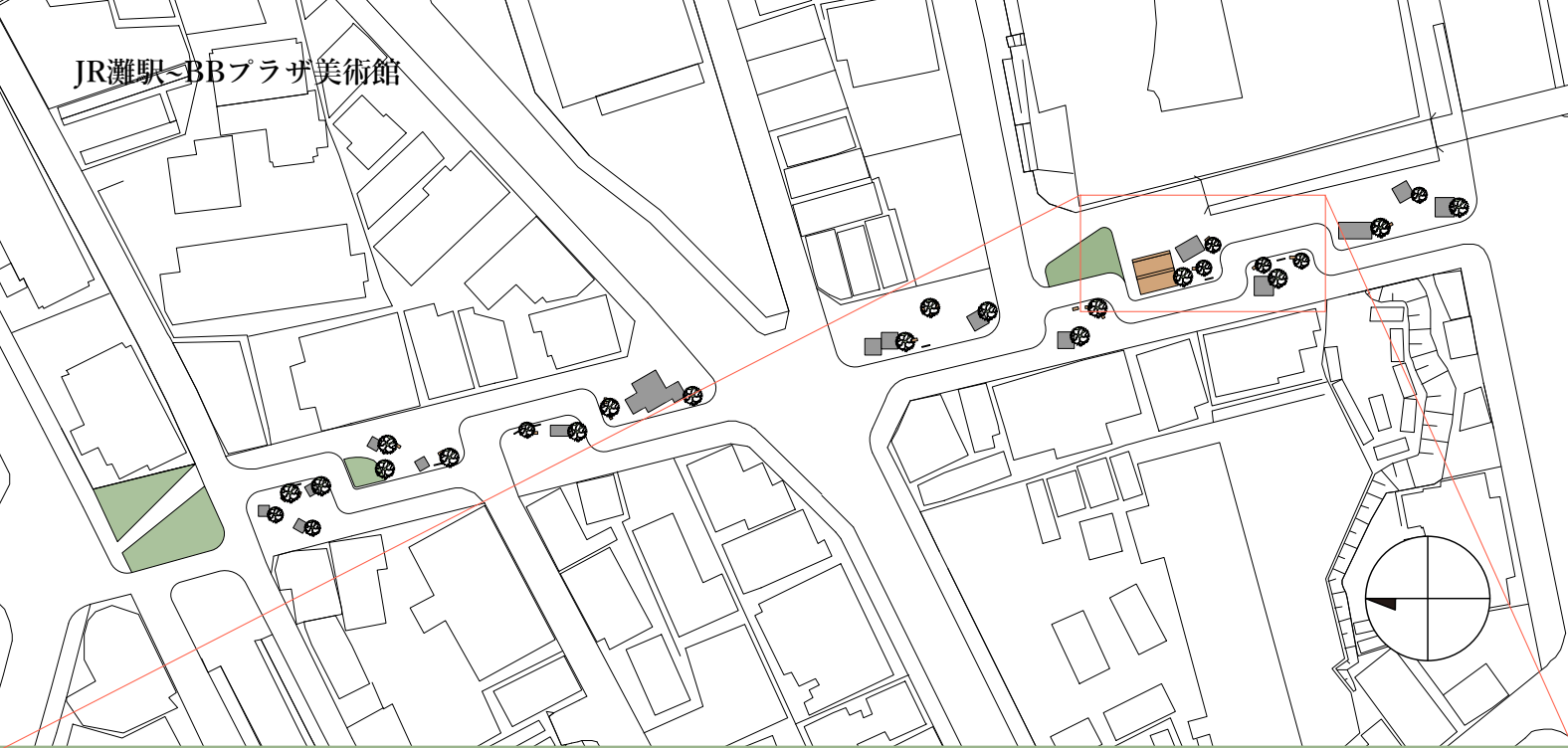
A-A'断面図



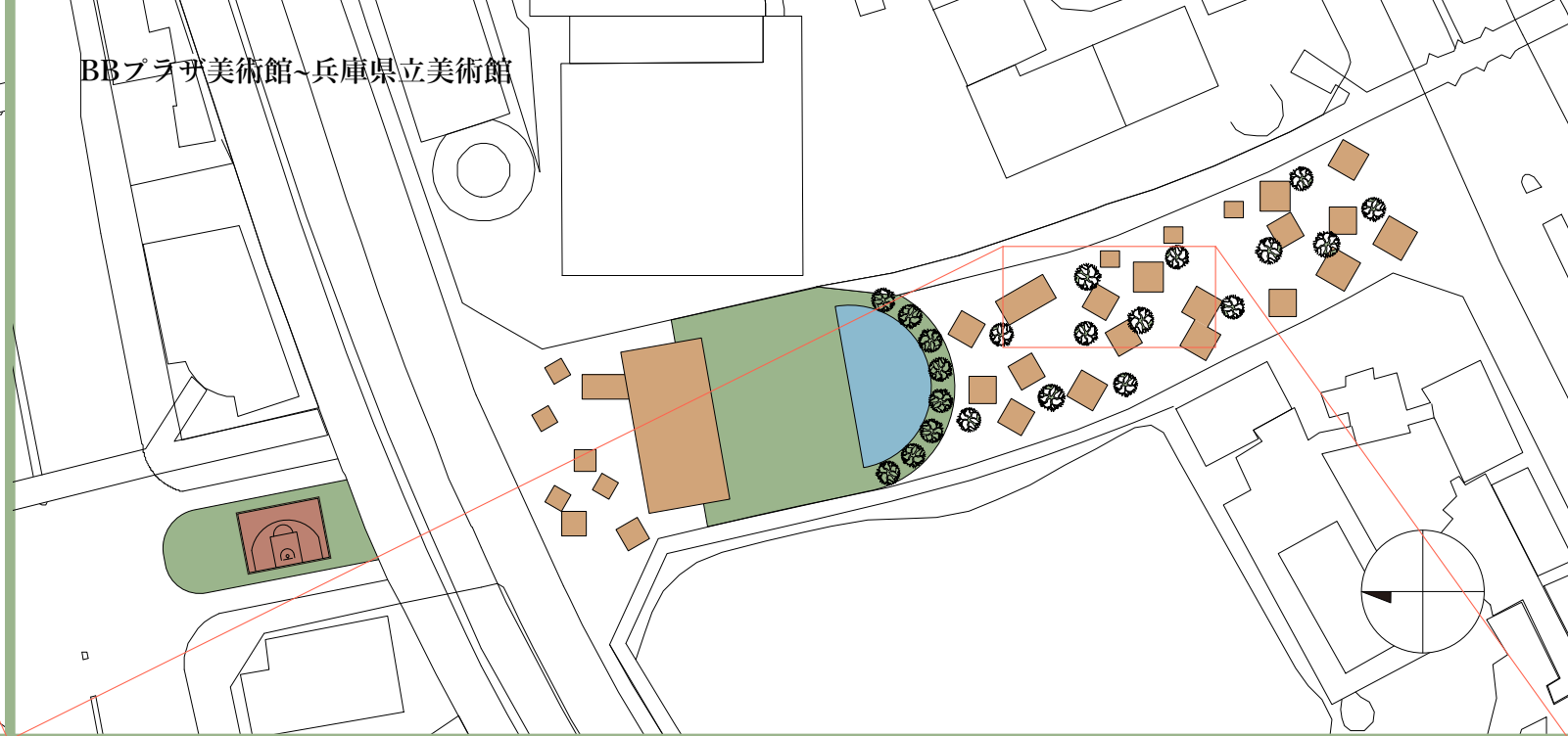
王子公園～JR灘駅間では車道をカーブした一方通行に
変えることで歩行者を優先とした道路になっている。
所々に木製の土台やベンチが設置してあり、それに合わ
せて木々も配置しているのでリラックスできる空間になっ
ている。
作品展示スペースもあるため、文化活動の成果を通りが
かりに見ることもできる



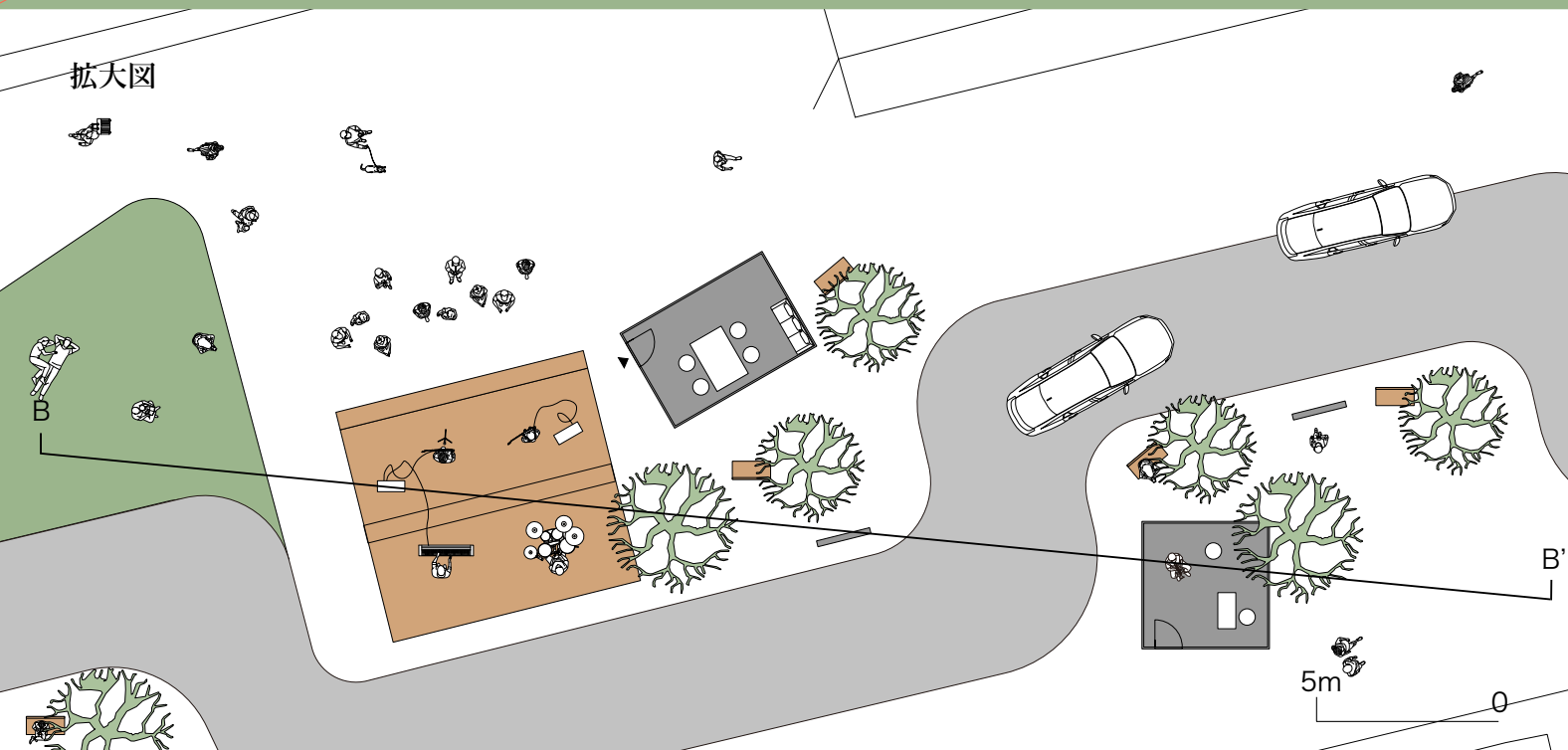
JR灘駅~BBプラザ美術館



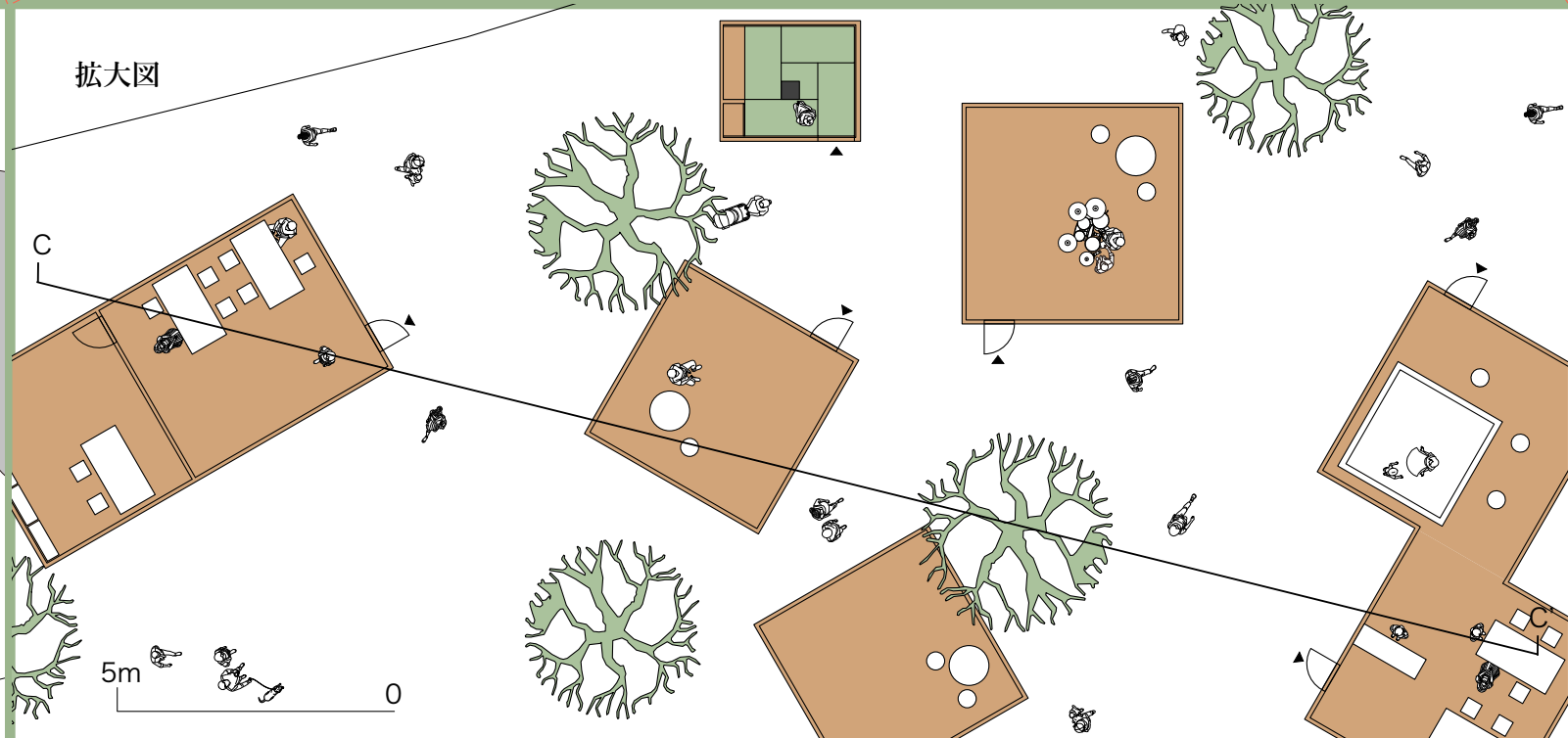
BBプラザ美術館~兵庫県立美術館



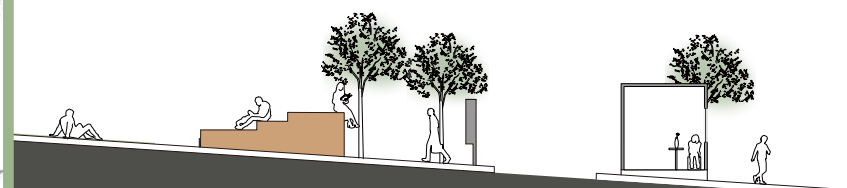
拡大図



拡大図

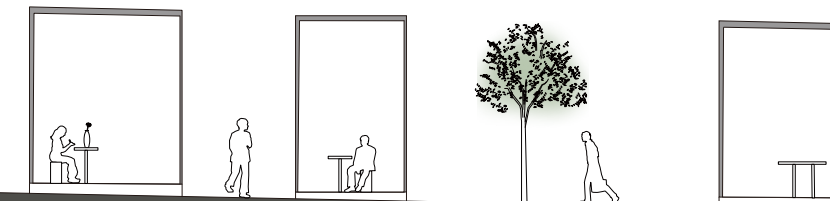


B-B'断面図



JR灘駅~BBプラザ美術館間は車道をクランクした一方通行に変えることで歩行者を優先とした道路になっている。
一人用スペースの個室がいくつかあり、屋根と壁があるため音の出る文化活動もできる。
一部芝生を敷いてあり、寝転がったり子どもが走り回れる空間になっている。

C-C'断面図



BBプラザ美術館~兵庫県立美術館間は車道を丸々無くしてしまい、歩行者のみが通れる空間になっている。
ここでは複数人が入るような大きめの箱が複数設置しており、文化活動はもちろん、市民の体験の場としても利用できるようになっている。
広い芝やバスケットボールのコートもあるため、スポーツの場としても使うことができる。

